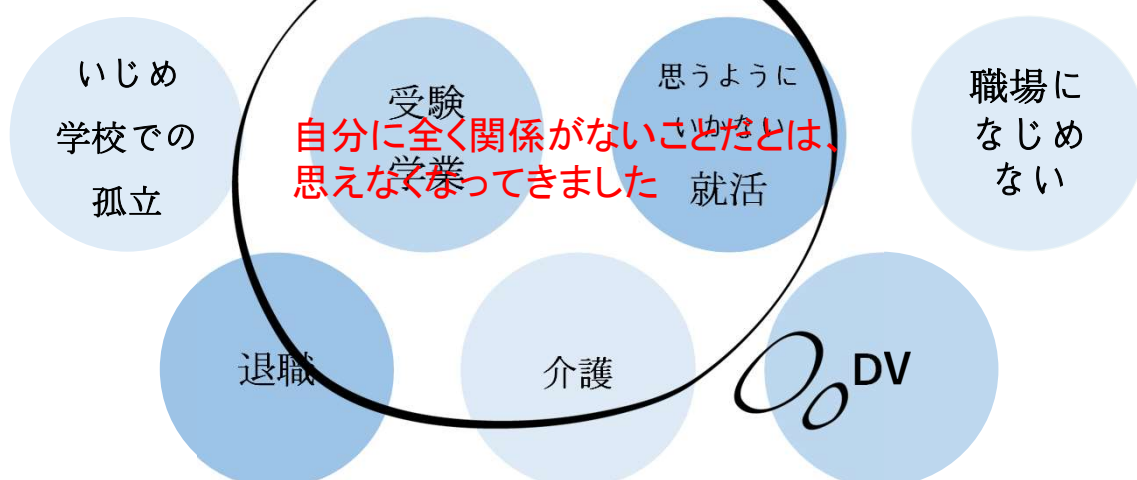


当事者ケアによる8050問題

NPO法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク 田中 敦

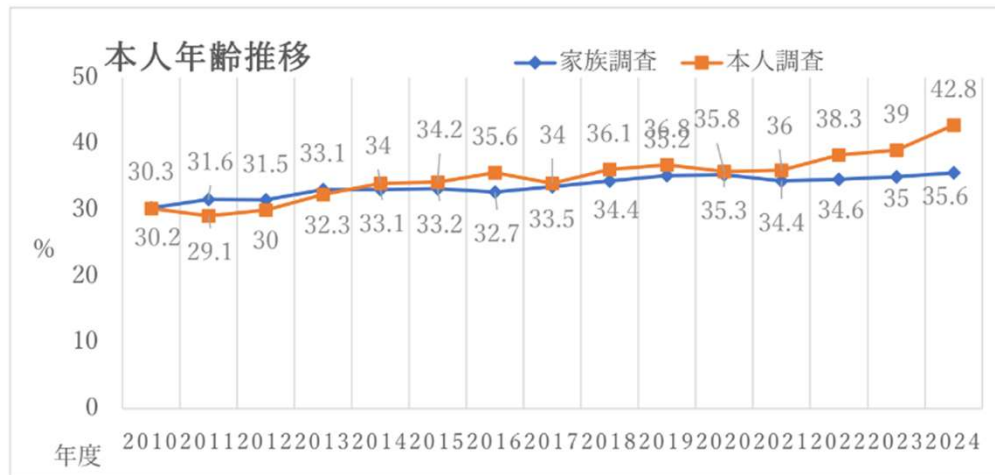
1

ひきこもりの原因



2

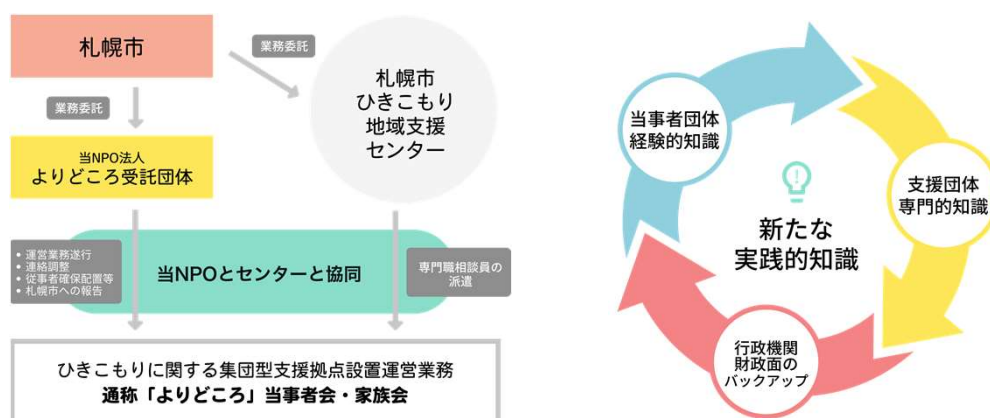
本人平均年齢42.3歳 期間11.6年



KHJ全国ひきこもり家族会連合会調査（2023年）

3

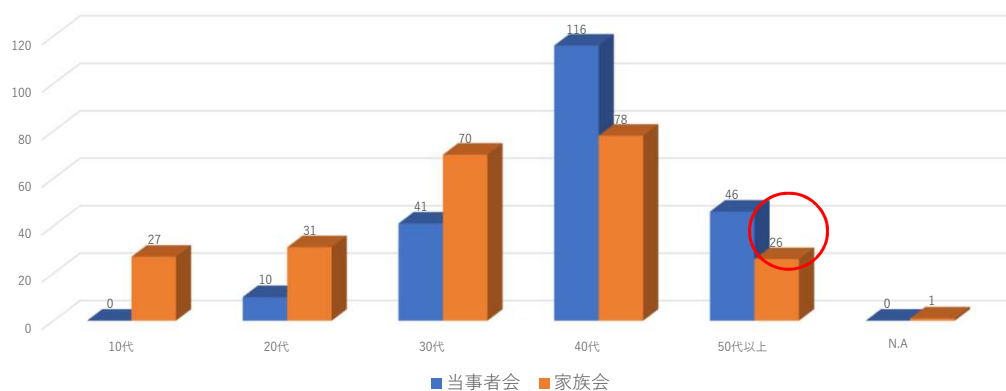
ひきこもりに関する集団型支援拠点設置 運営業務：「よりどころ」



4

8050世帯ほど社会的に孤立しやすい

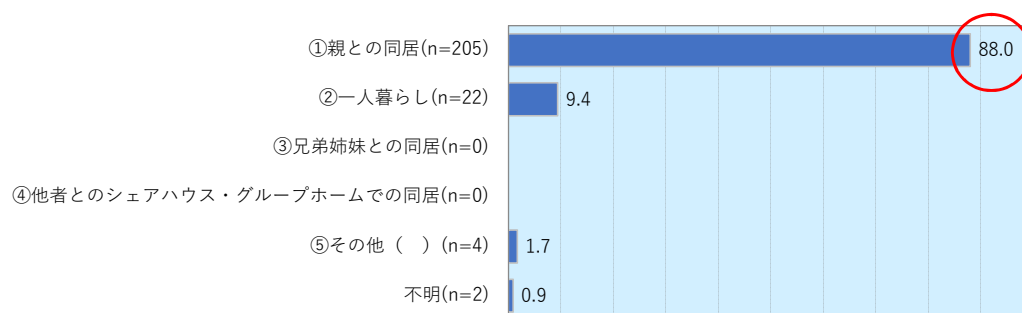
図.「よりとごろ」【当事者会】【家族会】双方から見た年代別傾向



5

居住形態における同居率の高さ

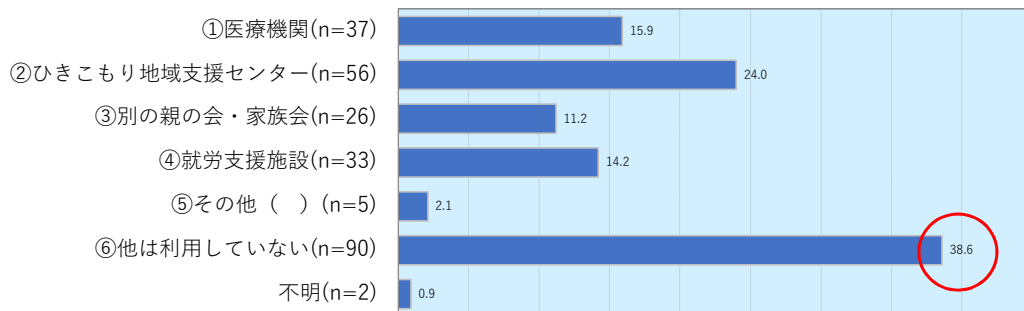
図.家族会参加者の居住形態 N = 233



6

社会資源の利用状況について

図.家族会以外の利用状況 N = 233



8050課題で見落としてはいけないこと

80代の親が50代の子どもを支える

50代の子どもが80代の親を支える



将来の生活の不安度を助長する存在



家庭介護の重要なキーパーソンとなる存在

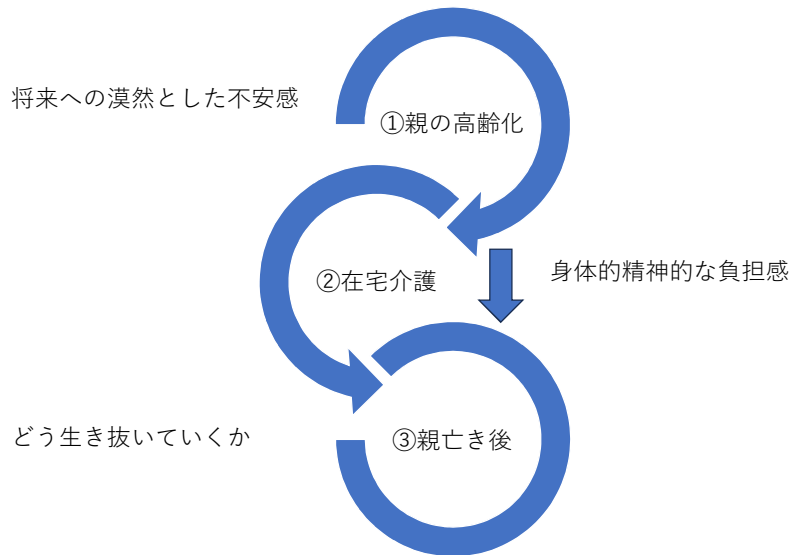
事例1

- ・ 父親：15年以上前に他界 母親：85歳 施設入所中
- ・ 兄弟姉妹はなし 本人：58歳 高校卒業後ひきこもり
- ・ 24時間体制で在宅介護し疲弊していたところ民生児童委員訪問
- ・ 8050世帯として地域包括支援センターとつながる
- ・ 入院を経て在宅介護か施設入所かで結果的に施設入所へ
- ・ 本人はひきこもり地域支援センターにも相談。助言を受ける
- ・ 生活は親の年金で何とかなっているが、今後は不安である

事例2

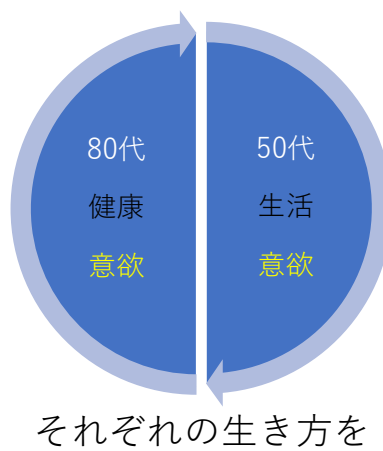
- ・ 父親93歳：母親84歳 立て続けに2年前に逝去
- ・ 実兄1人 本人：59歳 小6いじめ不登校からひきこもり
- ・ 母親は基礎疾患として統合失調症、アルツハイマー型認知症
- ・ 父親は慢性心不全で入退院を繰り返す
- ・ 要介護認定 在宅介護⇒病院
- ・ 本人は精神科通院中、アルバイト週2回 実兄からの支援
- ・ 来年60歳となり一つのアルバイト先から雇止め勧告を受ける

ひきこもり8050



11

80・50課題に押しつぶされないために



12

道ひ老連協の設立

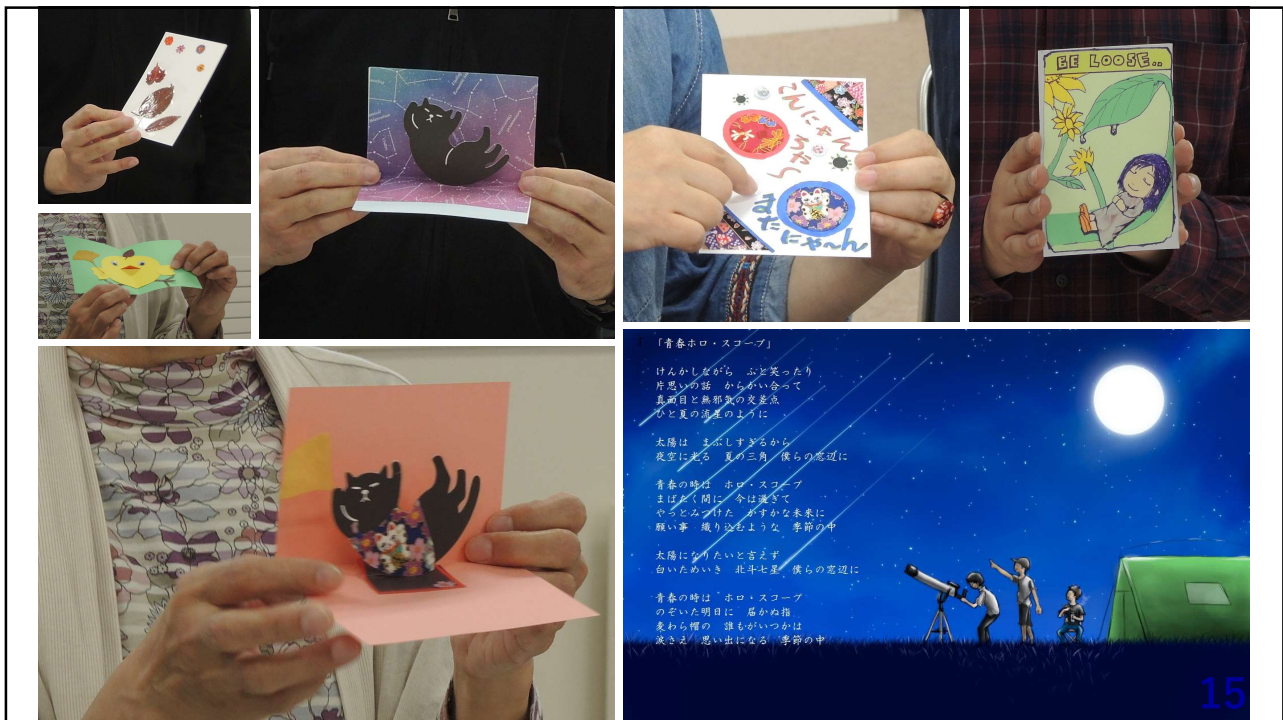


- ・（１）ひきこもり当事者の老後を支え合うに必要な「情報共有」
- ・（２）ひきこもり当事者の老後を支え合うに必要な「学習交流」
- ・（３）ひきこもり当事者の老後を支え合うに必要な「安全網構築」
- ・（４）その他、これに関連する必要な事項に関する事

13



14



会報「ひきこもり」通信作成事業

<https://letter-post.com>



在宅にいても無理なく社会参加し、地域の理解啓発を図る

ひきこもりとは関係のないところに糸口が

- 「いかにひきこもりの人のひきこもりの的ではないところとつながるかが鍵となる」
- 「つまり見立てや支援の手立てを考える際、ひきこもりという一面と向き合うのではなく、垣間見えるその人らしい表現や意外性といったところへのアクセスが当事者とつながる糸口となる」
(河合俊雄,2013)
- ひきこもりの〇〇さんではなく、一人の人間としてかかわること

ご清祥ありがとうございました